

# ヘブル(ヘブライ)人への手紙

— すべて古いものは成就し、新しくされる —

**著者:** 謎に包まれています。何世紀もの間、人々は、著者がパウロなのか、バルナバなのか、アポロなのか、それともテモテの友人のどれかなのか(ヘブル 13:23 参照)と考えてきました。ルカ、ピリポ、あるいは、プリスキラなどではないかと憶測されるが、考古学的大発見がない限り、現在は不明である。著者がだれか分からないにしても、私たちは、この書物がイエス・キリストの真のお姿と、クリスチャンの信仰を教えていることを信頼することができます。

**宛先:** イエスを自分たちのメシヤ(救い主)として信頼した。ユダヤ人たち。

**背景:** 多くのユダヤ人クリスチャンが、イエスに対する自分たちの信仰に疑いをもち始めていました。彼らは落胆し、イエスを救い主として受け入れたために自分たちの生き方を失ってしまった、と感じていました。多くの者が、ダヤ人としての昔の生活に戻ることを望みました。この手紙は、イエスを信じることは、ユダヤ人としての伝統や慣習のすべてにはるかにまさっていることを示すために書かれました。

**聖書の中での位置:** ヘブル人への手紙は、共同の手紙と呼ばれる区分の最初の手紙であり、新約聖書では 19 番目の書物に当たります。共同の手紙というのは、普通、ある特定の個人や教会に宛てられたのではない手紙のことです。それらの手紙は、教会から教会へと回して読まれました。

## ヘブル人への手紙におけるキリスト

この手紙は、クリスチャンになったばかりのヘブル人(ユダヤ人)宛に書かれたので、著者は、旧約聖書の人々や習慣について語っています。彼らは、民の罪のために祭司がささげるいけにえをよく知っていました。この手紙は、私たちの永遠の大祭司としてのイエスについて語っています。イエスは、最善のささげものをおささげになりました。それは、イエスご自身です。イエスは、完全な神の小羊として、私たちのために死なれました。イエスのいけにえは、決して繰り返される必要がありません。イエスが私たちのために死んで、よみがえられたので、私たちは、永遠のいのちをもつことができます。またどのような時でも、祈りによって父なる神のご臨在に近づくことができます。

**この手紙のテーマとメッセージ** イエスの生涯、死、そして、復活が旧約聖書の土台に立っていて、旧約聖書は成就した。

## 著者はイエスの特異性と優越性を説明する。イエスはだれよりも偉大なお方である！

- 預重者たちよりも偉大なお方: 旧約聖書において、神は、預言者と呼ばれる使者を通して語られた。終りには、神は、ご自身の御子イエス・キリストによって、私たちに語られた。神は、そのお方によって宇宙を造られたのである。  
ヘブル 1~2 章: イエスはみ使いたちよりすぐれたお方「しばらくの間、低くされた」(2:6-7)。
- 御使いたちよりも偉大なお方: イエスは神の御子である。御使いは、イエスを礼拝する。

- モーセよりも偉大なお方:モーセは、神の忠実なしもべだった。イエスは神の御子である。ヘブル 3:1～4:13: イエスはモーセよりも偉大なお方モーセは神の家を建てましたが、その建物の設計をしたのはイエスでした(3:1-6)  
 イエスもモーセも不信仰な者たちに取り囲まれていました。モーセはプレッシャーに耐え切れませんでした(民数記 20:2-13)、イエスは最後まで任務を遂行し、苦痛に満ちた屈辱的な十字架の死をも受けられました。み言葉への尊敬(ヘブル 4:12-14)
- ヨシヤよりも偉大なお方:ヨシヤは、神の民を約束の地に導き入れた偉大な指導者だった。しかし、彼は、民を安息に導き入れたのではなかった。イエスのみが、真の安息を与えられる。イエスを救い主として信頼する者は、自分で自分を救おうとすることをやめ、すべてをイエスの御手にゆだねる。
- すべての大祭司よりも偉大なお方:大祭司は、民の罪のために動物のいけにえをささげた。彼らは、これらのいけにえを、繰り返し繰り返しささげなければならなかった。動物のいけにえは、罪を取り除くものではなく、やがて神が、神の小羊であるご自身の御子イエスを通してなされることを示すものである。イエス・キリストは、決して罪を犯されなかった。イエスは、私たちの罪のための完全ないけにえとして、ご自身をおささげになった。イエスのいけにえは、もう決して再びささげられる必要はない。  
 ヘブル 4:14～10 章: イエスは、アロン(モーセの兄弟でイスラエルの最初の大祭司)や旧約聖書のどの大祭司よりもすぐれたお方=1 回と永遠イエスは「永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司」(5:10; 6:20)といわれています。  
 ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために。その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。律法は弱さを持つ人間を大祭司に立てますが、律法のあとから来た誓いのみことばは、永遠に全うされた御子を立てるのです。(ヘブル 7: 27-28)

イエスは、神の小羊であり、私たちの大祭司である。旧約聖書において、大祭司は、年に一度だけ、神の臨在の前に入って行くことができた。私たちの大祭司であるイエスは、まさに今のこの時も、父なる神の右におられる。キリストを信じる者たちは、どんな時にも、祈りを通して、大胆に神の臨在に近づくことができる。私たちがこのようにできるのは、イエスが私たちのために十字架の上でくださったことのゆえである。

### 律法は「後に来るはずの新しいものの影」(10:1)

10:3、4 動物の血、  
9:12、26

クリスチャンはこの新しい契約によってしっかりと神に結びついている。

この手紙は、クリスチャンに多くの勧めをしている。  
 ヘブル 10:22-25: 礼拝、罪の告白、愛と善行、集会と聖書の朗読  
 ヘブル 10:30-31: 神を恐れ、神を愛する

### 信仰のオンパレード(11 章)

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

ヘブル人への手紙は、強い信仰をもっていた多くの旧約聖書の人々について語っている。ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ラハブ、ギデオン、ダビデ、サムエルなどが、神を信じる強い信仰をもった人々の例として示されている。実際にこの人々の生涯とここに書かれた評価を比べると面白い。

昔の人々はこの信仰によって称賛されました…信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」(ヘブル 11:1、2、6)

「ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。」(ヘブライ 11:39-40)

### 主による鍛錬・試練

私たちは、神の御子イエス・キリストを信じる強い信仰をもつべきである。神の力は、他のいかなる力にもまさって偉大だからである。途中であきらめてはならない。イエスは、私たちがクリスチャン生活を送れるように、助けてくださるからである。私たちの生活は、イエスに従うことの模範であるべきである。

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです」(12:1、2)

この聖句は、マラソンレースを走る競技者をイメージしている。また、応援の観客は召された聖徒であることが分かる。

戒めや懲らしめを受けるのは、本当の子どもである証拠。

「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。」(ヘブライ 12:11)

主による試練はやがて、クリスチャンを整え、聖化の道筋を与える。

- ・ 試練について…マタイ 5:10、ヨハネ 9:1-3、2 コリント 4:7-11、1 ペテロ 4:12-14

### 神に喜ばれる奉仕の勧めと結語(13章)

- 互いに愛し合うこと、兄弟愛の実践(1節)
- 投獄されている人々を覚えること(3節)
- 結婚の純潔を守ること(4節)
- お金を愛さないこと(5節)
- 指導者たちに従うこと(7節)
- 賛美のいけにえを絶えず神にささげること(15節)

### 心に留めるべきみことば:

- ❖ 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。(1:1、2)
- ❖ さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。(4:14-16)

- ❖ この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。(7:27)
- ❖ この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。(10:10)
- ❖ 約束してくださったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。互いに愛と善行に励むように心がけ、…(10:23、24)
- ❖ 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。(11:1)
- ❖ 兄弟としていつも愛し合いなさい。(13:1)
- ❖ だから、わたしたちは、はばかりに次のように言うことができます。「主はわたしの助け手。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう。」(13:6)
- ❖ 善い行いと施しとを忘れないでください。このようないけにえこそ、神はお喜びになるのです。指導者たちの言うことを聞き入れ、服従しなさい。この人たちは、神に申し述べる者として、あなたがたの魂のために心を配っています。彼らを嘆かせず、喜んでそうするようにさせなさい。そうでないと、あなたがたに益となりません。(13:16、17)

## アウトライン

### 1. イエス・キリストの至高性(1:1-4:13)

- (1)キリストの至高性とその救いの偉大さ(1:1-3:6)
  - a.キリストによる神の言葉の究極的語りかけ(1:1-4)
  - b.御使いに勝るキリスト(1:5-14)
  - c.聞いたことに心を留めよ(2:1-4)
  - d.自ら苦しめられた救い主(2:5-18)
  - e.モーセに勝るイエス(3:1-6)
- (2)神の民の安息に入れ(3:7-4:13)
  - a.不信仰によって神から離れるな(3:7-19)
  - b.神の安息はまだ残っている(4:1-13)

### 2.大祭司キリストによる真の贖罪(4:14-10:18)

- (1)大祭司なるイエス・キリスト(4:14-6:20)
  - a.大祭司イエスにより御座に近付こう(4:14-16)
  - b.大祭司の資格とイエスの任職(5:1-10)
  - c.初歩にとどまらず、希望のうちに前進せよ(5:11-6:12)
  - d.神の変わらざる約束(6:13-20)
- (2)メルキゼデク系の祭司キリスト(7:1-28)
  - a.祭司王メルキゼデクの卓越性(1-10)
  - b.不完全なレビ系祭司と完全なメルキゼデク系祭司(11-19)

- c.神の誓いによる不変の大祭司キリスト(20-28)
- (3)新しい契約と天の幕屋(8:1-10:18)
  - a.優れた契約の仲保者なる大祭司キリスト(8:1-6)
  - b.古い契約に取って代わった新しい契約(8:7-13)
  - c.予型的祭儀による古い契約と地上の幕屋(9:1-10)
  - d.キリストの血による新しい契約と天上の幕屋(9:11-22)
  - e.完全な贖罪のための唯一の犠牲キリスト(9:23-28)
  - f.実体なき影としての古い契約とその祭儀(10:1-4)
  - g.永遠に有効なキリストの一次的犠牲(10:5-18)

### 3.希望の下にある信仰の道(10:19-13:17)

- (1)信仰と忍耐の奨励・勧告(10:19-39)
  - a.キリストによって神に近付こう(19-25)
  - b.赦されない故意の不信仰(26-31)
  - c.救いと報いの確信をもって忍耐せよ(32-39)
- (2)称賛されるべき昔の人々の信仰の歩み(11:1-40)
  - a.前史における実例(1-7)



①信仰の本質(1-3)	d.その他の信仰者の実例(32-40)
②アベル、エノク、ノア(4-7)	(3)信仰生活上の勧告と奨励(12:1-13:17)
b.族長時代の実例(8-22)	a.キリストに倣った神の訓練の忍耐(12:1-13)
①アブラハムとサラ(8-12)	b.神の恵みの拒絶への厳しいさばき(12:14-29)
②信仰者の故郷、神の都(13-16)	c.信仰共同体の善き生活(13:1-17)
③アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ(17-22)	
c.出エジプトとカナン征服における実例(23-31)	<b>4.結語(13:18-25)</b>
①モーセ(23-26)	(1)禱援の要請(18-19)
②出エジプト(27-29)	(2)祝祷(20-21)
③カナン征服(30-31)	(3)あいさつ(22-25)

## ヘブライ書におけるキリストの苦難

苦しめられたキリストは誰ですか。

### □ 万物の創造主、すべてを支えるお方で、贖い主、天におられる王の王

神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。(1:2~3)

### □ 偉大な大祭司

それで、イエスは、神の御前において **憐れみ深い、忠実な大祭司** となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しめられたからこそ、試練を受けている人たちを助けることができになるのです。(2:17~18)

さて、わたしたちには、もろもろの **天を通過された偉大な大祭司**、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。(4:14)

また、神は他の個所で、「あなたこそ永遠に、**メルキゼデク**と同じような祭司である」と言われています。(5:6)

このようにして、イエスはいっそう優れた契約の保証となられたのです。また、レビの系統の祭司たちの場合には、死というものがあるので、務めをいつまでも続けることができず、多くの人たちが祭司に任命されました。しかし、イエスは永遠に生きているので、変わる事のない祭司職を持っておられるのです。それでまた、**この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられる**ので、御自身を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになります。このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの **天よりも高くされている大祭司**こそ、わたしたちにとって必要な方なのです。この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。(7:22~27)

今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる**大いなる方の玉座の右の座**に着き、人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。(8:1～8:2)

しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、その後は、**敵どもが御自分の足台となってしまうまで、待ち続けておられる**のです。(10:12～13)

#### □ 永遠の主

イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です。(13:8)

#### 主の苦しみはどんな動機からでしたか。

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。(12:2、新改訳聖書)

#### 主の苦難は主ご自身にどんな意味がありましたか。

##### □ 十字架はイエス・キリスト様の栄光

ただ、「天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、「栄光と栄誉の冠を授けられた」のを見えています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。(2:9)

##### □ 十字架によって完成されたイエス・キリスト様

というのは、多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであったからです。(2:10)

##### □ 従順を学ばれたイエス・キリスト様

キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その恐れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となりました。(5:7～9)

##### □ 大祭司となられたイエス・キリスト様

わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入っていくものなのです。イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。(6:19～20)

#### 主の十字架は私たちのどんな恵みを与えますか。

##### □ 死と悪魔からの開放

ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした。(2:14～15)

#### □ 理解して下さる主、聞いて下さる主

この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。(4:15～16)

#### □ 罪の贖い、永遠のいのちを与える主

御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです。…まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。(9:12、14～15)

#### □ 罪を赦して下さる主

血を流すことなしには罪の赦しはありえないのです。…世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました。また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。(9:22,27～28)

#### □ 義と認められる主

なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったからです。(10:14)

#### □ 新しい契約の主

『それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにそれを書きつけよう。もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない。』罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや必要ではありません。それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。(10:16～22)

#### □ 忍耐を与える主

あなたがたが、気力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。(12:3)

#### □ 恵みを語る主の血潮

しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る、注がれた血です。(12:22～24)

### □ 門の外に導く十字架の主

なぜなら、罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれるからです。それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。(13:11~13)

### □ 契約の血によって備えて下さる大牧者

永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてください、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるように。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。(13:20~21)

---

## ヘブル人への手紙のその他のメッセージ

神は、かつて…語られたが、…語られました。(1:1-2)

ヘブル人への手紙の入門の言葉の抜粋です。完全に理解するために他の部分も読まなければなりませんが、この中に4つの大切なポイントがあります。

- ① 先ず神様の存在が現実です。ユダヤ人向きの手紙ですから、著者は旧約聖書の神様をそのままに主張します。律法や預言者たちが掲示した神様の名前をそのまま受け入れます。
- ② 神様はご自分を掲示して下さるお方です。人間に語って下さって、その御心を明確にして下さる神様です。
- ③ 神様は人々が受け入れる能力に合わせて過去において語って下さいましたが、今イエス・キリスト様において私たちは神様の完全で最終的な掲示を受けています。人々は少しずつ進んでその掲示の内容を受け止める事が出来ますが、それを終わりまで汲み尽くす事は出来ません。
- ④ 過去において語ったにも関わらず、神様はイエス・キリスト様において話す必要があったし、それは可能でもありました。旧約聖書は未だ完全な掲示を含まなかったから必要でしたが、旧約聖書の不完全な掲示はイエス・キリスト様に現れる完全な掲示を十分理解するには必要です。

だから、わたしたちは聞いたことにいっそう注意を払わねばなりません。そうでないと、押し流されてしまいます。(2:1)

「だから」という言葉は一章の内容を指します。旧約聖書の掲示はみ使いたちによって与えられましたが、新約聖書の掲示は御子イエス・キリスト様によって与えられています。ですから新約聖書の権威は旧約聖書より遥かに高いものです。それはこの二つが矛盾する意味ではなく、旧約聖書をイエス・キリスト様のみ言葉の光で照らさなければ、本当の理解が得られません。旧約聖書の言葉は正しくて、それを無視する人に裁きがやってきます。しかし、イエス・キリスト様の掲示は救いの掲示です。神様がイエス・キリスト様において語ったから掲示から押し流される事はもっとも危険な状態です。救いのメッセージは律法のメッセージよりもっと力強い警告です。人間は流れに押し流されやすい者です。特に手紙を受けたクリスチャンたちは迫害や困難の中に、楽な方に流され易い状況にいました。



だから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち、わたしたちが公に言い表している使者(告白する信仰の使徒)であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。(3:1)

もう一度前に書かれた事を指してのアピールが書いてあります。主イエス・キリスト様の低くされた、賢そんな、苦しみの姿はその威厳や栄光や尊厳を小さくする訳ではなく、かえってその大祭司としての生命を可能にしました。押し流されるから助かるには一番重要な事は、目を偉大な大祭司であるイエス・キリスト様に留めて、主の姿を考える事です。

イエス・キリスト様を先ず私たちの信仰告白で言い表した使者(Apostolos)、父なる神様から私たちに権威あるメッセージを伝える為に派遣された使節として見るべきです。又完全な大祭司として見るべきです。

モーセなどに比べると主の優れた偉大さが分かります。モーセは神様の家に忠実な僕であったが、イエス・キリスト様は家の所有者、御子です。モーセは民を奴隷状態から外に導いたが、約束の国の中に彼らを導く事が出来なかったのです。イエス・キリスト様は奴隷状態から約束の所有するまで導く事が出来ます。ヨシヤは彼らを国の中に導いたが、彼らに休みを与える事が出来なかったのです。イエス・キリスト様は平和と平安を与えて下さいます。

「考えなさい」と翻訳された言葉は注意深い、徹底的な姿勢で考え続ける意味のものです。私たちは多くの場合にこの点で失敗しがちです。徹底的に主に注目を向ける姿勢は聖なる修練です。

さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。(4:14)

イエス・キリスト様の祭司としての働きをもっと詳しく説明する事に進みます。イエス様はただの祭司だけではなくて、大祭司です。旧約聖書の中に大祭司は最高の祭司の務めを意味しましたが、イエス・キリスト様はそれよりも遥かに大きい、偉大な大祭司です。

イエス・キリスト様はもろもろの天を通過した事は、空気の天も、宇宙の天も通って、神様のご臨在の天国をも通って、もっとも父なる神様に近くて、親しい所まで大祭司として私たちの為に働いておられます。ここに三位一体の深い奥義も現れています。父なる神様とイエス・キリスト様が一つである事です。

諸々の天を通過した事は先ず天から地上に来られて、そして地上から天のみ国に帰られた事が含まれています。エペソ人への手紙では同じ事が次のようにまとめられています:

「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。(エペソ 4:9~10)

また、神は他の個所で、「あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である」と言われています。(5:6)

神様に召されて、その務めを果たして来た、アロンからの祭司達より、遥かに高い、わたしたちの告白する信仰の大祭司は地上の一時的な祭司ではなく、永遠の祭司であります。私たちの大祭司は神様の御子で永遠にその務めを天で続けておられます。

平和と義の王様であるメルキゼデクには、祭司として罪の問題を解決する使命だけではなく、奉仕と戦いの中にいのちを支える使命もありました。アブラハムが勝利を得た戦いから帰る途中で祭司メルキゼデクが向かいに来て、パンとぶどう酒を与えて、又祝福をしました。アブラハムは彼に十分の一献金を与えました。キリストの祭司職も罪の問題の解決の上に、何時までも私たちを支えて、平安を与えて、祝福する事です。

あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいのです。(6:12)

このような大祭司を持ちながら、私たちは怠け者になる誘惑があります。それはやはり目を大祭司から逸らして、基本的な教理さえ握り締めないで、悔い改めを怠って、十字架の恵みを捨て、主から離れて行く事です。信仰生活は容易いものとは限りません。積極的な姿勢を忍耐深く保つ必要があります。

このような危険から私たちを守るのは神様のみ言葉の固い約束で、又天で私たちの為に執り成しをして下さる大祭司であるイエス・キリスト様です。イエス様は私たちの希望の礎です。

礎は希望のしるしになっています。イエス・キリストご自身が天国で礎として船を嵐の中に動かないようにするだけでなく、礎から救われているクリスチャンの心まで強い鎖が続きます。私たちの心の中にその鎖を固く握っているのは聖霊様です。最終的に聖霊様は私たちの希望の礎でおられるイエス・キリスト様の所まで引っ張って下さいます。

この約束だ固いものですから、私たちは忍耐をもって約束されたみ国を求めましょう。

それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになります。(7:25)

完全に救う事の出来る事は二つの事によります。イエス・キリスト様は私たちを救って下さいますが、その反面に私たちは神様に近づく必要があります。神様の近くにいますと、大祭司であるイエス・キリスト様はその執り成しの結果、私たちを完全な者として天のみ国まで連れて行くことが出来ます。私たちは未だ完成されている訳ではありませんが、神様の近づくで仲介者であり、大祭司であるイエス・キリスト様は私たちに知恵や力や恵みをずっと与えて下さいます。神様の近くから離れるとこれらの恵みの働きからも遠ざかってしまいます。

神様の近くに行けるのはイエス・キリスト様を通してです。又イエス・キリスト様によって私たちは主の近くに留まる事が出来ます。そこに十字架の贖いのゆえに義と認めら私たちがキリストの復活の体のようになり、完全な救いに預かる事が出来ます。

わたしたちの大祭司は…まさった契約の仲介者になられたからです。(8:6)

新約聖書の契約と言う形の遺言が十字架上に成立しました。旧約聖書と新約聖書の遺言の関係をヘブライ人への手紙の9章は詳しく説明します。

新約聖書の遺言には二つの部分があります。その内容を短くまとめれば、次の通りになります。

まず第一にイエス・キリスト様は凄く長くて、具体的に色々の罪のリストを書き並べて下さいます。そこには神様を無視する不信仰、偶像礼拝、不従順、わがまま、党派心、喧嘩、殺意、妬み、恨み、けがれ、情欲、盗み、貪り、裏切り、無関心、憎しみ、よこしま、酩酊、嘘、詐欺、悪口、争い、絶望、占い、軽蔑、高ぶり、善を怠る事、分派、高慢、怠惰などあります。とても長いリストで、又沢山の具体例も伴います。そしてイエス・キリスト様はこう書いて下しました。「私はこれらのすべての罪の責任を背負うって、その処罰を終わりまで十字架の上で遺言の相手方の身代わりとして受け入れます。支払います」と。

第二にイエス・キリスト様は別の長いリストを書き記して下さいました。そこにはいのち、愛、喜び、平和、平安、忍耐、神様の子供の身分、永遠のいのち、天国、栄光、豊かさ、祝福、従順、交わり、賛美、使命、支配権、きよさなど、イエス・キリスト様の持つ財産が全部含まれます。そしてイエス・キリスト様は言われます:「これらのすべての私の所有を遺言の相手の方々に残します」と。

この遺言は西暦 30 年によき金曜日にイエス・キリスト様の死によって有効になって、今現在も有効です。

普通の遺言で相手方が財産を自分の名義に写すには、遺言と身分証明(住民票)と死亡証明書以外に何も要りません。しかし、イエス・キリスト様の遺言の相手方は一体誰でしょうか。罪の支払いは全世界のすべての人々のためです。しかし、遺言があっても、それによって与えられた財産を自分の名義に移そうともしない人々が多いでしょう。それは自分の身分証明書を見せようとしませんからです。神様の御前の身分証明書は何でしょうか。それはイエス・キリスト様の遺言に書いてある罪のリストを自分の罪として認める事に過ぎません。それは別名で悔い改めと呼ばれます。

また、人間にはただ一度死ぬことと、その後裁きを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。(9:27~28)

新しい契約はイエス・キリスト様が祭司として父なる神様の御前で私たちの為に現れて、又いつも取り成して下さる事で成り立っています。しかし、イエス・キリスト様はもう一度もろもろの天を通過してこの世に現る事を約束されました。それは再臨の大いなる日です。再臨はイエス・キリスト様に望みを掛ける私たちにもっとも嬉しい日で、もっとも期待すべき時です。再臨は救いの完成の日で、主が崇められる日、勝利の日です。

心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。(10:22)

新しい契約の特徴はイエス・キリスト様の完全な十字架の贖いによって与えられる罪の赦しで、又その結果として神様を個人的に知る事で、又聖霊を頂いて、新しい心で神様の御心を行う事です。そのすべては主の一方的な恵みによって与えられるから、私達は何の恐れもなく、自由に主に近づく事が出来ます。前もって自分を変える事が要らないし、又実際に出来ません。ありのまま、子供がその父に近づくように主の所に行きましょう。

具体的に主のもとに行くのは自分の本当の姿を認めながら祈って、十字架の恵みを頂いて、新しい清さと力を頂いて、教会の交わりの中で主イエス・キリスト様の再臨を待ち望む事です。

すべての礼拝はイエス・キリスト様の再臨を指します。その日に私達は主の御前での完全な礼拝に預かりますから、教会の礼拝はその時のリハーサルのようなものです。

イエス・キリスト様の再臨の近い事を忘れてはいけません。色々の困難や疲れや迫害の中にあって、忍耐を与えるのは心を主の再臨に向ける事から湧き出ます。

ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。(11:39~40)

イエス・キリスト様の再臨を待っている間に、疲れて、約束が中々成就されない事で希望を失う恐れがあります。そのような時に以前信仰の道で戦い脱いだ先輩たちの模範を覚える必要があります。旧約聖書の信仰者たちは神様の約束の言葉を頼りにして終わりまで信仰の道を歩まれました。しかし、私たちに彼らより遥かに大きな救いの完成の約束がありますから、イエス・キリスト様の再臨の日に向かって走り続けましょう。



こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て(ご自分の前に置かれた喜びのゆえに)、恥をいともわなないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。(12:1~2)

私たちの信仰の道のりの歩み方を旧約聖書聖書の時代の信仰者たちと先に主のもとに行かれた生徒たちはずっと観察して、私たちがイエス・キリスト様を仰ぎ見て走る事を願っています。ここに今までヘブル人への中に書かれた事のまとめのような節です。主の最高の喜びは人々の救いですから、それを得るために苦しみの道を選ばれた。私たちにも色々の懲らしめや戦いが先にありますが、その中に神様は私たちを愛で導いて下さいます。それらの中で私たちが清められて、主にもっと役に立つ人間に成長出来ます。

しかし、私たちの歩みは個人的なものだけではなく、他のキリスト者と共に主の栄光を目指していますから、教会の人間関係を正しく保つ必要があります。あらゆる罪を悔い改めなければなりません。悔い改めを怠って、恐ろしい主の清い火を直面しなければなりません。

永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてくださり、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるよう。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。(13:20~21)

主の内に私には欠けているものが何もありません。主は永遠に私のものです。

## 学びのための質問

神様はみ子において語られます 1:1-14 (誰が語られますか)

### 第1章

1. 神様は以前人々にどのように語られましたか。(1)
2. 神様は今日私たちにどのように語られますか。(2) 主はあなたにどう語られたかを例を挙げて下さい。
3. 神様が語っておられるのはあなたにとってどのような意味がありますか。(1,2)
4. 神様のみ子イエス・キリスト様はどのようなお方ですか。(2-3,8-13)
5. 神様の御子を知らない方にどのようにイエス・キリスト様を描写したらよいのですか。(2,3)
6. イエス・キリスト様が万物の相続者である事はどんな意味でしょうか。(2,6 ; コロサイ 1:13-19 を参照に)
7. 世界の創造はどう行われましたか。(2 ; 創世記 1:1-3; 箴言 8:22-31, ヨハネ 1:1-4, コロサイ 1:16-17 を参照に)
8. 世界は誰のために創造されましたか。(2,3)
9. イエス・キリスト様が「神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われ」である事はどんな意味をするのでしょうか。(3 ; ヨハネ 1:14 を参照に)



10. 万物がどのように成り立っていますか。(3, コロサイ 1:17 を参照に) あなたの人生においてそれは何を意味しますか。
11. イエス・キリスト様は罪のきよめをどのようになさいましたか。(3, 10:12 ; コロサイ 1:13-14 を参照に)だれの罪の事でしょうか。あなたの罪はどうか。
12. 3 節の中に「救い主」と「主」と言うイエス・キリスト様の役目がどのように描写されていますか。罪を清める事と父なる神様の右の座に座る事はどのような関係にありますか。(3,6:20)
13. 「大能者の右の座に座れる」と言う表現は何をいみますか。(3 ; マタイ 26:64 を参照に)
13. イエス・キリスト様は父なる神様の右に何をなさっておられますか。(8,13, 2:17,7:25)
14. イエス・キリスト様は 1 章の中にどう呼ばれますか。(2,5,8,10 ; ヨハネ 1:1-2 を参照に)それらはイエス・キリスト様の本質について何を語りますか。
15. イエス・キリスト様の支配はどのような性質のものですか。(6,8,9,10,12,13)
16. み使い達は同のような存在ですか。(6,7,14) 旧約聖書の中に彼らの役割はどんなものでしたか。(2:2) 新約聖書の中にどうか。黙示録はみ使いたちについて何を教えていますか。

**御子の語られる事を心に留めなければなりません。2:1-4 (何を語られますか)**

## 第 2 章

1. イエス・キリスト様の語られる事を心に留めるのは具体的にどういう内容ですか。(1)
2. 信仰者にはどのような密かな危険がありますか。(1,3)
3. み使いを通して頂いた旧約聖書の啓示に対してどんな態度をとるべきですか。(2)
4. イエス・キリスト様が備えた大いなる救いを拒む事の結果はなんですか。(3 ; 10:26-31,12:25)
5. み言葉の警告はなぜ信仰者にとって必要ですか。
6. 救いのメッセージはどのようなルートで私たちに届きましたか。(3,4)
7. 使徒たちの証には誰が働けましたか。その方はそれをどうなさいましたか。(3,4)
8. 神様がみこころに従って聖霊が分け与える事はどういう意味でしょうか。(4)

**救いの創始者 2:5-18 (誰が語られますか)**

9. イエス・キリスト様が支配する「後の世」は何ですか。(5,8)
10. 旧約聖書をどう理解すべきかにおいて 6 ~ 8 節はどのようなヒントを与えますか。
11. 今日は未だ見えないのはなんですか。しかし今日もうすでに見えるのは何ですか。(8,9)

12. イエス・キリスト様が栄光と誉れを受ける理由は何ですか。(9, ; イザヤ書 53:10-12 を参照に)
13. 神様の恵みはどこに現れましたか。(9)
14. イエス・キリスト様の死はあなたにとって何を意味しますか。(9,10)
15. 救いの創始者であるイエス・キリスト様はその苦しみによってどのような完成を得られたでしょうか。(10,11,14, 17)
16. きよめは何ですか。信仰者をきよくなさるのはだれですか。(11)
17. キリスト者は神様の子供でありながらイエス・キリスト様の兄弟である事は何を意味しますか。(11-13)
18. 主が私たちを兄弟と呼ぶことを恥としないのはなぜですか。(11,13)
19. イエス・キリスト様が父なる神様を告げたり、父なる神様に頼ったり、父なる神様を賛美したりするのはどこですか。(12,13) そうであるなら私たちの信仰と伝道と賛美との性質は为什么呢。
20. なぜ悪魔は死を支配していますか。その悪魔の支配はどのように打ち破られましたか。(14)
21. 死に対する恐怖はどのような影響を私たちの人生におよぼしますか。その中からどのように開放されますか。(15)
22. み使い達は神様によって創造された、責任ある存在です。イエス・キリスト様の救いは墮落したみ使い達まで及びますか。なぜでしょうか。(16)
23. 神様が人間にならなければならない理由は何ですか。(17)
24. イエス・キリスト様が私たちを理解して、すべての人生の場面で助けることが出来る事が分かる根拠は何ですか。(18)

## モーセより偉大なイエス・キリスト様 3:1-6 (誰が語られますか)

### 第3章

1. 信仰を持つ人は誰であり、どのような人でしょうか。(1)
2. イエス・キリスト様は誰であり、どのようなお方でしょうか。(1)
3. イエス・キリスト様を考える事はどういうことですか。(1 ; コロサイ 3:1-5 を参照に)
4. イエス・キリスト様が自分を立てた方に忠実である事は何を内容としてしましたか。(2 ; ルカ 16:10 と ヨハネ 5:19; 6:38-40 を参照に)
5. モーセとイエス・キリスト様の互いの関係はどんなものでしたか。(2,3)
6. 2-4,6 節の中の家と言う言葉は何を指しますか。(1 テメオテ 3:15 を参照に)
7. モーセの最も大切な使命は何でしたか。(5 ; 1:1-2 を参照に)
8. 天の目的地に達するために何が必要ですか。(6)

## 途中で救いの道から離れる危険 3:7-4:13 (何を語られますか)

9. 7 節の表現「聖霊が言われる」は旧約聖書の性質と役割について何を語りますか。(7,15；詩篇 95:7-11 と 1 コリント 10:1-13 を参照に)
10. 神様の語りかけを受けた信仰者にもどのような危険がありますか。(7,8,10；4:7 を参照に)
11. 神様から沢山の恵みを頂いても何が起こり得るのでしょうか。(9,11；4:5 を参照に)
12. 神様のみ怒りは性質はどんなものですか。その結果は何ですか。(10,11)
13. 最も恐ろしい罪はなんですか。その影響はどのようなものですか。(12)
14. 誘惑に打ち勝って、心が頑なにならないように何が必要ですか。それをどの位の頻度で要りますか。(13, 15)
15. 「最後まで、終わりまで」と言う表現は新約聖書の中に 11 回出ますし、ヘブル人への手紙の中に 3 回出ます。それはどう言う意味ですか。(6,14;6:11)
16. 救いはどのような内容ですか。(14)
17. 初めの信仰を保つのはどのように出来ますか。(14；ヨハネ 15:3-7 を参照に)
18. 聖書が同じ事を繰り返し貸すのはなぜでしょうか。(7,15)
19. 聖書は「今日」と言う日を強調するのは何故でしょう。(7,15；4:7 と 2 コリント 6:1-2 を参照に)
20. 16~18 節にどのような警告がありますか。
21. 神様の安息に入る妨げは何でしょうか。(18,19)
22. 神様の安息はどういう状態でしょうか。(18；4:1,4,9,10 を参照に)

## 第 4 章

1. 何を根拠として神様の安息に入れますか。(1,3,9)
2. 神様の約束が私たちの人生の中に成就するには何が必要ですか。(1,2)
3. 「信仰によって結び付く」という事は何を含めるのでしょうか。(2)
4. 信仰の本質は何ですか。(3) 不信仰の本質は何ですか。(3:19)
5. 3~4 節は神様が用意される安息について何を語りますか。(マタイ 15:34 を参照に)
6. ある人々が神様のみ言葉を見捨てると、神様は何をなさいますか。(6,7)
7. 信じる人の人生には、神様のみ言葉に従う努力、戦い、励みが付きものですが、それは律法の下に努力事とどう違いますか。(11；フィリピ 1:5-6;2:12-13 を参照に)
8. 神様のみ言葉は信じる人の人生にどのような影響を及ぼすでしょうか。(12)
9. 私たちの歩みは何処で行われますか。(13) あなたの人生に神様に隠したい分野がありますか。

## 大祭司イエス様 4:14-5:10 (誰が語られますか)

10. イエス様もろもろの天を通過された事は何を意味しますか。それはイエス様の大祭司としての務めとどんな関係でしょうか。(14 ; 使徒の働き 2:32,33 を参照に)
11. ヘブル人への手紙は信仰告白 (3:1;4:14;10:23)を強調しますし、それを揺るがない希望にも結び付きます。信仰告白と信仰を告白する事の意味はなんですか。(14)
12. イエス様はどのような大祭司ですか。(15)
13. 弱さと罪はどう違いますか。(15) あなたの弱さは何ですか。あなたの負けやすい罪はなんでしょう。(15)
14. 3章と4章の厳粛な警告の背後に何がありますか。(16) 社会的な圧力や流れが押し寄せるときに信仰の道を歩み続けるのはどのように可能ですか。(16)
15. 誘惑に負けた罪人がどうして大胆にイエス様のところに行けますか。(16)
16. 16節の「おりにかなった」と言う表現は何を指すでしょうか。

## 第5章

1. 大祭司の使命は何ですか。(1,3)
2. 新約時代の祭司、言い換えれば信仰者が間違っている、無知の人々に対してどんな態度をとるべきですか。(2 ; 1ペテロ 2:9 を参照に)
3. イエス様が大祭司でおられる事は何に基づきますか。(4,5,6)
4. イエス様が「メルキゼデクの位に等しい祭司である」事はどんな意味でしょうか。(6,10 ; 6:20 と 7:1-17 を参照に)
5. イエス様は永遠の昔から大祭司として生まれましたが、捧げ物をしたり、とりなしをしたりするためにイエス様は地上でどのような献身式を受けなければなりませんでしたか。(7,8 ; マタイ 26:36-42 を参照に)
6. キリスト者の人生に苦しみはどんな役割を果たしますか。(8)
7. イエス様はどのような意味で苦しみの中に完全になりましたか。(9)
8. イエス様が与えて下さる救いはどんな性質を持ちますか。(9)
9. どのような人々がイエス様から救いを受けますか。(9)

## 霊的な糧 5:11-6:12 (何を語られますか)

10. 主のみ声を聞く妨げはどこから来ますか。(11)
11. 霊的な成長を止める理由は何ですか。(12)
12. 霊的な幼稚と霊的な大人の特徴はなんですか。(13-14)
13. 何によって善と悪を区別することが出来ますか。(14)

## 第6章

1. キリストについての初歩の教えは何を含めますか。(1-2)
2. 死んだ行いは何ですか。(1)



3. 悔い改めは何ですか。(1)
4. 信仰は何ですか。(1)
5. どのような洗礼がありますか。(複数です。) それぞれの意味は案ですか。(2)
6. 将来に私たちが預かる体の復活と最後の裁きはどのような内容ですか。裁きはなぜ必要ですか。(2)
7. 霊的な成長の条件は何ですか。(3)
8. 信仰を頂いて生まれ変わる事はどのような内容ですか。(4-5)
9. 信仰から離れた人々の中に悔い改めに引き戻すことの出来ない人々はどのような人でしょうか。(6; 10:26-31を参照に)
10. 聖霊様を汚す罪はなんのでしょうか。(6; マタイ 12:31-33 とマルコ 3:28-30を参照に)
11. あなたの心の土はどんなもののでしょうか。(7-8; マタイ 12:33-36 と 13:1-23を参照に)
12. ヘブル人への手紙を受け取ったキリスト者は聖霊様を汚した罪を犯さなかった事が何によって分かりますか。(9)
13. 警告はどうしてクリスチャンにとって必要ですか。(9, 11,12; 5:11を参照に)
14. 誰かの信仰が本物である事が何によって分かりますか。(10)
15. 神様は私たちの生き方をどう見られるのでしょうか。(10)
16. 希望についての確信は何ですか。その意味は何ですか。(11)
17. なぜ信仰も忍耐も必要でしょうか。(12, 15)

## 偉大な大祭司 6:13-10:19 (誰が語られますか)

### 信頼できる神様 6:13-20

18. アブラハムへの祝福は何ですか、私たちにそれはどんな意味がありますか。(13-15; エペソ 2:11-14を参照に)
19. 誓いの役割は何ですか。(16) なぜイエス様は誓いを禁じましたか。(マタイ 5:34-37 とマタイ 26:63-64を参照に)
20. 聖書はどうして信頼できますか。(17)
21. 神様に何が不可能ですか。(17-18)
22. 人生の励ましは何処から出ますか。(18)
23. キリスト者の希望はどんなものですか。(19)
24. 希望の根拠は何ですか。(19-20)

## 第7章

### メルキゼデクの制度による大祭司 7:1-28

1. メルキゼデクはどのような方でしたか。(1; 創世記 14:18-19、詩篇 110:4を参照に)
2. キリストの祭司としての勤めとメルキゼデクの類似点を挙げて下さい。(2,3,4,6,8,16,17,24)
3. イエス様は大祭司でありながら王様である事はどういう意味ですか。(1,2)
4. イエス様が義と平和の王であられるのは私たちにどんな意味を持つのでしょうか。(2)

5. イエス様とメルキゼデクの間での比較は 3 節にどちらの方向でしょうか。言い換えればメルキゼデクがイエス様のようにされたか、それともイエス様がメルキゼデクにされたのでしょうか。
6. 十分の一献金はなぜ奉げられたのでしょうか。(2,4,5,6,8,9 ; マラカイ 3:10 を参照に) 新約聖書の献金と旧約聖書の十分の一献金はどんな関係にあるのでしょうか。(2 コリント 9:1-15 を参照に)
7. 祝福の意味は何ですか。祝福をする人はどんな立場に立っているのでしょうか。(6,7) 神様の約束と祝福はどのような繋がりでですか。
8. なぜアロンから始まった祭司職が廃止されましたか、それはどう行われました。(11,12)
9. 新約聖書の牧会者の努めは何に基づきますか。すべての信徒の祭司職は何を根拠としますか。(11,12,14 ; 1 テモテ 3:1-7 と 1 ペテロ 2:4,9 を参照に)
10. イエス様の大祭司としての努めは何に基づきますか。(16,17,21)
11. なぜ前の律法が廃止されました。(12,18,19)
12. 律法と別に神様への道は何ですか。(19) なぜ旧約聖書の律法が与えられたのでしょうか。(ローマ 7:7 を参照に)
13. イエス様が新しい契約の保証者である事は私たちに何を(22)
14. 契約はどんな意味でしょうか。(22; 8:6-13; 9:1-4,15-20; 10:16,29; 12:24; 13:20 を参照に)
15. イエス様は大祭司としてどのような特徴を持っておられますか。(24,26,28)
16. 大祭司としてイエス様は何をなさいますか。(25,27)

## 第 8 章

### 新しい契約の仲介者 8:1-13

1. ヘブル人への手紙の主なテーマは何ですか。(1)
2. イエス様は今何処にいらっしゃって、何をなさいますか。(1,2,3 ; 1:3; 13:12 と 1 ヨハネ 2:1 を参照に)
3. イエス様が父なる神様に献げた供え物はなんですか。(3)
4. 旧約聖書の供え物を献げる礼拝の役割はなんでしたか。(5; 9:9)
5. 新しい契約は何に基づきますか。(6 ; ローマ 4:13-25 を参照に)
6. 新しい契約の大いなる約束はなんでしょうか。(6,10-12)
7. 新しい契約の救いの道はどのようなものですか。(12,11,10)
8. 旧約の欠陥は何処にありましたか。(7,8,9,13)
9. 神様の律法はどのように人間の心の中に書きつけられますか。(10)
10. 主をどのように知ることが出来ますか。(11)
11. 神様が与えて下さる赦しはどのような性質のものですか。(12)

## 第 9 章

### 旧約聖書の供え物による礼拝 9:1-10

1. 旧約聖書の供え物による礼拝はなぜ行われましたか。(1,4,5,7 ; ローマ 3:23-26 を参照に)
2. 至聖所は何を含めたか、又その中の詳細は何を物語りますか。(3,4,5)

3. 出エジプトによると香壇は聖所にあります。4 節はそれが至聖所にある事はどうしてでしょうか。(4 ; 出エジプト 26:1-; 25:31 を参照に)
4. 大贖祭と天幕の構造はどのような神様の啓示を含めるでしょうか。(7,8)
5. 天幕の礼拝は私たちに何を語っていますか。(9)
6. 旧約の規定の中に私たちが守らなければならないものはありますか、又守らなくてもよいものは何ですか。(10)

### 新しい契約の供え物 9:11-10:18

7. 新しい契約の神殿、幕屋は何ですか。(11 ; ヨハネ 2:19-21 と 1 コリント 3:9,16 を参照に)
8. 教会建物はどんな役割を果たしますか。
9. 「既実現している恵みの大祭司」と翻訳されたものの直訳は「将来に現れるよいものの大祭司」ですが、それは何を語りますか。(11)
10. 「幕屋を通る」事で新しい契約の至聖所に行けますが、新約の至聖所は何ですか。(11,12, 24)
11. イエス様は供え物として何を捧げましたか。(14) その供え物はどういった性質を持っていましたか。
12. 十字架の苦しみの中に三位一体がどう現れましたか。(14)
13. イエス様の血潮はキリスト者の内にどのような影響を及ぼしますか。(14)
14. 旧約時代の信仰者はなぜ救われましたか。(15 ; ローマ 3:23-26 を参照に)
15. イエス様の血によって清められた人々に何が与えられますか。(15)
16. 新しい契約の遺言は何ですか。その中身は何ですか。(16 ; マタイ 26:26-29 を参照に)
17. 遺言はいつ有効に成りましたか。(17)
18. 旧約の遺言は何時又どのように結ばれました。(18-21 ; 出エジプト 24:3-8 を参照に)
19. 罪の赦しの条件は何ですか。(22)
20. 私たちの大祭司は父なる神様の御前に何をなさっておられますか。(24)
21. イエス様の苦しみは何時行われましたか。(26)
22. イエス様の供え物は何処まで十分ですか。(26)
23. すべての人間に何が定まっていますか。(27)
24. 最終的な救いは何時与えられますか、又その内容は何か。(28)

## 第 10 章

1. 古い契約のいけにえを献げる事は人間を完全にすることが出来なかったが、なぜそのような礼拝が続いたのでしょうか。(1-4)
2. イエス様のいけにえとしての死の意味は何でしょうか。(7,8)
3. イエス様のいけにえとしての死は父なる神様の御心でしたが、その御心は私たちに對してどのような結果をもたらせますか。(10)

4. きよめ、聖なる者にされるのはどんな内容ですか。(10 ; ヨハネ 17:17-19 を参照に)
5. イエス様のいけにえによって永遠に全うされた人々がなぜ清められるのでしょうか。(14 ; ヨハネ 15:8,16)
6. 十字架の贖いを成し遂げられたイエス様は今何処におられますか。(12)
7. イエス様は何を待っておられますか。(13)
8. イエス様の血はどのような新しい契約をもたらせましたか。(15-18 ; 8:10-12 を参照に)
9. 過去の罪を思い出す時に私たちは何を覚えるべきですか。(17,18 ; 2 ペテロ 1:8-9 を参照に)

## 大祭司としてのイエス様の天での奉仕からの結論 10:19-13:25 (何を語られますか)

### 心境による勇気 10:19-25

10. キリスト者の信頼の根拠は何処にありますか。(19)
11. 信仰者の行き先はどこですか。(19 ; エペソ 1:20-23 を参照に)
12. 父なる神様の所への道はなんですか。(20 ; ヨハネ 14:1-9 を参照に)
13. 「新しい生きた道」とはどういう意味ですか。(20)
14. 至聖所へ通るための垂れ幕はなぜなのでしょう。(20)
15. 信仰の確信は何に基づきますか。(21-22)
16. 信仰生活を保つために最も大切なものは何ですか。(22)
17. 体の清さは何のために必要ですか。清い水は何を指すのでしょうか。(22 ; ヨハネ 13:6-10)
18. 信仰者の希望は何にかかっていますか。(23)
19. キリスト者は愛してよい行いをするために何が必要ですか。(24)
20. なぜ信仰、希望と愛が聖書の中に中心的なものでしょうか。(22,23,24 ; 1 コリント 13:13 と 1 テサロニケ 1:3 と 1 ペテロ 1:3-9 を参照に)
21. 信仰告白はどうして必要でしょうか。(23,24)
22. 教会の礼拝はなぜ必要でしょうか。(25)
23. 信仰を持つ教会の基本的な姿勢は何ですか。(25)

### 故意の罪 10:26-31

24. どのような罪は一切赦されませんか。(26,29 ; 6:4-6 を参照に)
25. その罪に留まった人の運命はどのようなものですか。(27,30-31 ; 12:29 を参照に)
26. なぜそんな結果になりますか。(28,29,30)
27. 人間にとって最も酷い事は何でしょうか。(31 ; マタイ 10:28 を参照に)

### 信仰者の忍耐 10:32-39

28. 信仰に入ることとはどのようなものですか、又その結果は何になり得るのでしょうか。(32, 33, 34)
29. 過去の経験は信仰生活においてどのような役割を果たすのでしょうか。(32)



30. なぜ信仰者は財産が奪われても恨まなくてもよいでしょうか。(34)
31. 勇気と忍耐を育てるためにどうしたらよいでしょうか。(35-36)
32. イエス様は何時再臨なされますか。(37 ; 2 ペテロ 3:9-10 を参照に)
33. 真の人生の秘訣は何でしょうか。(38)
34. 信仰の反対は案でしょうか。(38-39)

## 第 11 章

### 信仰の模範 11:1-40

1. 信仰の本質は何ですか。(1)
2. 神様は信仰に対してどう応答なされますか。(2)
3. 信仰と理性は互いにどのようなかんけいにありますか。(3) 信仰と科学はどうでしょうか。
4. 自分が義と認められた事がどのように分かりますか。(4)
5. あなたの信仰は他の人に対してどのように語っていますか。(4)
6. 神様が私たちに対してどのような証明をなさるでしょうか。(5)
7. 「信仰によって」と言う表現は信仰の本質について何を語るでしょうか。(3-5)
8. なぜ信仰がなくては、神に喜ばれることはできませんか。(6)
9. 信仰と神様の啓示に対する従順はどんな関係にあるでしょうか。(7,8)
10. 未だ何も持たない信仰は何を掴みますか。(8,9)
11. 信者はなぜこの世の中に属しない寄留者のような気持ちになりますか。(9-10,13)
12. あなたはどのような目的地を目指して歩んでいますか。(10,16)
13. なぜキリスト者が信仰を持つことが出来ますか。(11)
14. 信仰は何を見ますか。(13)
15. 信者の本当の国籍は何処でしょうか。(13-16)
16. 神様は信仰を持つものに対してどのような信頼を示されますか。(16)
17. 信仰の試練の役割は何でしょうか。(17-19)
18. 信仰による結論付けはどのようなものですか。(19)
19. あなたの信仰で図ったら、神様はどの位の事ができるでしょうか。(19)
20. 祈りと祝福の中に信仰はどう働きますか。(20,21)
21. 私たちが亡くなったら、信仰は後に残された人々にどのような影響を及ぼすでしょうか。(22)
22. 信仰の故に国の命令と法律に逆らう結果になり得るのは何故でしょうか。(23)
23. 場合によって、なぜ信仰者は最も難しい道を選びますか。(24-26)
24. 信仰は困難の中に耐えるのは何故でしょうか。(27)
25. イスラエルの長子たちは何故すくわれましたか。(28)
26. 不可能な所をどのように通ることが出来ますか。(29)
27. エリコの城壁を倒したのは何でしたか。(30)
28. 信仰はあなたの人生の中にどのような業を生むことが出来るでしょうか。(31-35)

29. 迫害の中に耐える事の出来る可能性がどの位ですか。(36-38)
30. 旧約時代の信仰者の共通点はなんですか。(39)
31. 旧約聖書の人々が未だ持たなかった、更にまさったものは何ですか。(40)

## 第12章

### 忍耐と主からの懲らしめ 12:1-13

1. 私たちを囲んでいる証人たちは誰でしょうか。(1)
2. 今生きている信仰者と先に立たれた信仰者はどのような関係にあるでしょうか。(1; ルカ 16:27-29 と黙示録 6:10 を参照に)
3. 私たちはどのような無駄な荷物を持つでしょうか。(1)
4. 重荷と罪はどう捨てる事が出来ますか。(1)
5. 忍耐は何時特に必要ですか。(1,3)
6. 信仰者の目はどの方向に向かうべきでしょうか。(2)
7. 信仰の根拠は何処にありますか。(2)
8. 十字架はイエス様にとってどのような意味をしたでしょうか。(2)
9. 恥(恥かしさ)と有罪(罪責感)はどう違いますか。
10. 十字架の道を歩まれたイエス様の動機は何でしたか。(2) (二つ違う翻訳が可能です: 「喜びを捨て」又は「喜びのゆえに」)
11. イエス様は今何処におられますか。(2; マタイ 28:20 を参照に)
12. 疲れや失望感の時に何がキリスト者の助けでしょうか。(3)
13. 罪と戦うときの血を流すことは何を指すでしょうか。(4)
14. 場合によって私たちの困難や闘いはどうしてやって来ますか。(5)
15. 主が与えて下さる懲らしめは罪との戦いにどのような関係を持つでしょうか。(4,5,10,11)
16. 主の愛はどのように表れる場合がありますか。(6; 黙示録 3:19 を参照に)
17. 子供たちの不正行為や非行は何について物語りますか。(7,8; 箴言 13:24 を参照に)
18. 主の懲らしめの目的はなんでしょうか。(9,10,11)
19. 萎えた手をどのようにまっすぐにすることが出来ますか。(12; マルコ 2:10-12 を参照に)
20. まっすぐな道を歩むには何をすべきでしょうか。(13, 2)

### キリスト者にふさわしい生活の勧告 12:14-29

21. 清めは何ですか。それはどうして必要ですか。(14; 13:20-21)
22. 恨みからどのように開放されますか。(15)
23. 恨みはどのようにして大変破壊的ですか。(15)
24. 人生の間違った優先順序にどのような危険性がありますか。(16)
25. どうしてエサウの涙が役に立たなかったでしょうか。(16-17)
26. 旧約の山はどこで、又どのような山でしたか。(18-21)
27. 神様の近くに何が怖いですか。(21)
28. 新約の山は何処ですか、又どのような山ですか。(22-24)
29. 天国の栄光に誰に会えるでしょうか。(22-24)

30. アベルの血は何を訴えるでしょうか。神様の小羊イエス様のいけにえの血は何を語っていますか。(24；出エジプト 4:10 を参照に)
31. 神様のみ声を聞いた人はどのような危険に曝されますか(25)
32. イエス様が与えて下さった啓示はどこからですか。(25)
33. イエス様の再臨はどのような結果を持たされますか。(26-27；マタイ 24:35 と 2 ペテロ 3:10-13 を参照に)
34. 最終的な目的は私たちの歩み方にどのような影響を与えますか。(28)
35. 神様に火は滅びの人々に、又救われた人々にとってどのようなものですか。(29；黙示録 14:11 と 1 コリント 3:15 を参照に)

## 第 13 章

### 神に喜ばれる奉仕 13:1-19

1. クリスマン同士の間が冷えたらどうなりますか。(1；ヨハネ 15:9-10 を参照に)
2. もてなしの役割は何ですか。(2)
3. どのような態度で囚人や暴力を受けた方々を覚えるべきでしょうか。(3)
4. 結婚を清く守る理由は何ですか。(4)
5. 貪りから開放する秘訣は何ですか。(5；ピリピ 4:11-13 を参照に)
6. 今の状況で満足する事はどのような大きな約束によりますか。(5-6；マタイ 28:20 を参照に)
7. キリスト者の安心感は何に基づきますか。(5-6)
8. 本物の霊的な指導者の特徴は何ですか。(7,17)
9. 十字架上のイエス様と父なる神様の右のみ座に座っておられるイエス様はどう違いますか。(8)
10. 異端の中に縛られている人々と対照的にキリスト者の行き方はどのような性質を持っていますか。(9)
11. 私たちの祭壇はどこですか。私たちの供え物はなんのでしょうか。(10,15,16)
12. イエス様がエルサレムの門の外に苦しみを受けなければならなかった理由は何でしょうか。(11-12)
13. キリスト者にとって最もよい所は何処でしょうか。宿営の外に出かけることは何を意味にしますか。(13)
14. 信仰者の生き方の目標は何ですか。(14)
15. 神様は何を喜ばれるでしょうか。(15-16)
16. 教会の指導者たちと信徒の関係はどうあるべきでしょうか。(17)
17. よい良心を保つ事の意義は何でしょうか。(18；9:14 と使徒 24:16 と 2 コリント 1:12 と 1 テモテ 1:5, 19 を参照に)
18. ヘブル人への手紙を書いた人は手紙をもらった人々からどのようなとりなしの祈りを願ったでしょうか。(18-19)

### お祈りと結びの言葉 13:20-25

19. イエス様はどのようなお方ですか。(20)
20. キリスト者の歩みを可能にするのは何ですか。(21)
21. 清めの最終的な目的は何ですか。(21)

22. 信仰者にとっても聖書の勧めを受け入れるのは時々難しいですが、何故でしょうか。(22)
23. キリスト者同士の情報交換の役割は何でしょうか。(23-24)
24. 信仰者は最終的に何によって生きるのでしょうか。(25)